

笠間が好きなひと。応援したいひと。この指とまれ！

KASAMA FAN

かさまファン俱楽部通信 創刊号 発行日／2004年12月14日 発行元／笠間市観光協会(茨城県笠間市下市毛289-10) TEL 0296-72-9211 http://www.intbo.or.jp/kasama

笠間再発見！

朝房山に見る 古代先進文化の跡：

- 発刊によせて
笠間市観光協会 会長・増渕浩二
- 笠間昔話
昭和27年頃の笠間駅前
- FAN FAN インタビュー
笠間ふるさと案内人の会・村尾好司さん

2004 - 2005冬
創刊号
VOL.001

●KASAMA INFORMATION
彩初市、笠間日動美術館、
茨城県陶芸美術館、笠間工芸の丘 ほか

●かさまファン俱楽部 会員募集
長谷川智恵子さん/
假屋崎省吾さん/斎藤典生さん

2005年が良い年でありますように。

「かさまファン俱楽部通信」発刊に寄せて

すかさず笠間の名所や名物を次から次へと付け足して 観光客の皆さんといっしょに喜んでしまいます。

笠間市観光協会／会長・増渕 浩二



笠間市観光協会の会報「やすらぎ」は、平成8年度より始まり年2回、総発刊数16回を数え、多くの皆様に支えていただき誠にありがとうございました。

今回より名称の変更等にともない「かさまファン俱楽部通信」と改めまして、年4回発刊の予定をして

おります。前号までは主に事業報告を中心のため、直接事業に携わらない方にはあまり関心をいただけない内容であったかと思います。今後は、笠間の四季折々の観光情報の提供はもとより、観光のまち笠間において最前線で働く人たちの紹介や、笠間を外から見る外国人の方や市外県外の皆様の声を率直に聞かせていただくコーナー等を企画して、笠間の皆様との情報交流の場になればと思います。笠間に訪れるお客様にも、笠間に住んでいる皆さんにも、笠間再発見ができるような充実した魅力ある機関誌を目指し、観光笠間の一翼を担う事ができれば幸いです。

笠間に訪れる観光客の皆さんに時折聞くことは、「笠間はいいところですね」といわれますので、「どんなところがお気に入りですか」と尋ねますと、「城下町の情緒があって、門前町の風情が笠間の歴史を感じ取ることができます。山々の稜線がきれいで焼物と美術館があって、とてもアーティスティックで住んでみたいところです」などといわれますと、すかさずお客様の言わなかった名所や名物を次から次へと付け加えて、お客様と一緒に喜んでしまいます。それとは逆に、「笠間の地元の人に、笠間は駄目だ物は高いしサービスも悪く大した見どころはない、などと聞きました」とお客様から言われたときは、「それは諱避しているんですよ」などと言ってしまいますが、いいところを観光客へ自信を持って話していただければ、笠間の観光も市民や県民の誇れる観光地になるものと思います。

もちろん、観光協会や観光関係者には厳しいご意見等を賜れば幸いでございます。今後とも「かさまファン俱楽部通信」のご愛読をいただけるようがんばってまいりますので、ご支援ご協力をお願い申し上げます。

かさまファン俱楽部通信とは？
かさまファン俱楽部通信とは、笠間に 관심のある方と、笠間に住んでいる方をつなぐ交流の場を提供する機関誌です。笠間四季折々の観光情報の提供はもとより、笠間の声も紹介していくたいと思いつく人々の紹介や、笠間市外の方の声も紹介していくひと。この指とまれ！」をさせ合なさいに、この機関誌を発刊させていただきます。

前回の会報におきまして会報新名称の募集を行いましたところ、新5名様より6作品の応募がありました。ご応募いただき誠にありがとうございました。関係スタッフによる編集会議の中で応募作品を討議いたしました結果、残念ながら採用までにはいたりませんでした。つきましては新名称を内部検討し、「かさまファン俱楽部通信」と改めさせていただきましたのでお知らせいたします。

会報の新名称募集結果について

お 知 らせ



笠間音話



昭和27年頃の笠間駅前、
この頃は電車やバスが最大の交通手段でした。

写真提供・山中写真館／笠間駅から駅前通りを眺める（昭和27年11月撮影）

昭和27年(1952)
という時代

首相は吉田茂。タンチョウヅルが特別天然記念物に指定(3/2)。十勝地震(3/4)。手塚治虫「鉄腕アトム」少年誌で連載開始(4/1)。NHKドラマ「君の名は」放送開始(4/10)。日米安保条約発効(4/28)。血のメーテー事件(5/1)。白井義男、世界フライ級チャンピオン(5/19)。羽田空港が米軍より返還、東京国際空港に(7/1)。ヘルシンキオリンピック開幕、16年ぶりに日本参加(7/19)。映画「風と共に去りぬ」封切(9/4)。生きた化石「シーラカンス」発見。アフリカに近いコロモ諸島(12/20)。

- この年に出了商品
マジックインキ、ホッキス、べんてるの絵具、ロッテ黒船ガム、白糸テレビ・17インチ（松下電気）価格29万円（大卒初任給7650円）受信契約数1000台未満。

○この年のヒット曲
「りんご道分」美空ひばり。
「元気シーワルツ」江利チエミ

通
鳥居があつて、この通りはずつと参道だつたんですね。いなみ旅館さんは、姿は変わりましたが現在もありますね。笠間煉瓦さん、弁天町にひときわ大きな煙突が立つていて、幼き日々かられんぼにもつてこいの場所でした。今となつては大変珍しくなつたボンネットバスも、当時はごく普通に街中を走つていました。この当時は、車掌さんが乗つていて「次は、東電前、東電前」つて、あの



独特の口調で言うのがとつてもかっこ良く見えました。その頃の人々にとっては、電車やバスといった交通機関はとても大切なものでした。まだ自家用車が高嶺の花だった時代、電車やバスが最大の交通手段で、駅前は一日中にぎわい活気がありました。幼い頃に電車やバスで遠くに出掛けると、とてもわくわくしたものでした。現在は車社会に取つて変わられ、それらに乗る機会も少なくなってしまいました。当時は公害問題も今ほど騒がれてはいなかつたでしょう。今ここでもう一度、私達の生活を見直してみて、車で出掛ける事を減らし、電車やバスを利用する事を考えるべきではないでしょうか？ そうする事によつて、公害を減らし人に優しい環境づくりに貢献できるのではないか？

シリーズ VOL.01
笠間再発見！



あさ ぼう やま
**朝房山に見る
古代先進文化の跡。**

文／ローマス・孝美（笠間市池野辺在住）

山頂にある石碑



蛇の子を産んだスカビメ「常陸國風土記より」

この山のふもとに、スカビコとスカビメという兄と妹が住んでいました。ある夜、スカビメの部屋に、一人の若者が忍び込んできました。

二人はすっかり気持ちが合って一夜を過ごし、朝になると男はどこかへ帰っていました。しかし、どこから来たのか、名前を何というのかも分かりません。

その後も、男は毎晩のように通ってきました。二人は心から愛し合うようになり、夫婦の約束をするほどになりました。

やがてスカビメは妊娠し、月満ちて生まれたのは、何と一匹の小さな蛇だったのです。スカビメは驚き、悲しみました。思案の末、小蛇を杯に入れて育てることにしたところ、小蛇は一晩のうちに大きくなり、杯いっぱいになってしまいました。

そこで、壺(かめ)に入れ替えたところ、蛇はまた大きくなり、壺いっぱいになってしまうのです。こうして次から次へと壺を取り替えるのですが、蛇はたち

まち大きくなってしまうではありませんか。

スカビメは蛇に向かって言いました。

「お前は神様の子だ。わたしたちではこれ以上養うことができないから、そなたの父のいる天に帰りなさい。」

蛇はすぐ承知しました。

「お母さんのおっしゃるとおりにします。その代り、誰か男のお供をつけてください。」

スカビメは困ってしまいました。

「この家には、わたしと兄のスカビコしかいない。お供をする人などいないではないか。」

すると蛇はたいへん怒り、スカビコを殺して天に上ろうとしたので、スカビメは驚き、蛇に向かって壺を投げ付けました。その壺が蛇の体に触れたとたん、蛇は靈力を失い、天に上ることもできなくなり、クレフシ山の神となって永くこの山にとどまったということです。

「朝房山」それは笠間、水戸、常陸の境に位置する神話と伝説の神秘的な山。

茨城はその昔、日本の中でも、精神文化に優れた地域であったと言われています。

これらのことは民俗・歴史・考古学を通して読み取る事ができます。原始・古代から気候風土に恵まれ、それらの条件の下、食料事情も豊かな環境があり、文化水準も高かったのでしょうか。しかし、時を経て高度経済成長と共に変貌を遂げた日本、この時期茨城県は、遺跡破壊状況全国2位、ゴルフ場数全国2位といずれにしても不名誉な結果をもたらしています。開発で失われた郷土の財産を取り戻すことは不可能ですが、私達の価値観を足元に向ければ、子供達にも郷土の誇りを伝えていくことが出来るのです。

それでは笠間に目を向けてみましょう。近代、笠間は政治・文化共に開け、水戸よりも先に発展していました。又それよりも遥か昔、古代史の中ではさらに先進的な文化が形成されていたのです。皆さんは朝房山と言う山をご存知でしょうか。常陸国風土記にも登場し、神話も残っています。又、注目すべきは、新編常陸国誌の中で、那珂郡鹿島郷の由来を伝えるところに、天津児屋根尊が金鷲に乗って常陸国中郡古内山（朝房山）に天下り、その後國中を廻り鹿島郡に御在所を定めた、とする記事があり、朝房山の歴史の古さを物語っています。事実、鹿島神宮造営の折、朝房山周辺の林木が朝房山麓を通る塩街道を利用して鹿島に搬出されたと記録されています。これらの事からもわかるように、大和朝廷の支配が及ぶ前からこのあたりは、精神文化の中心地であったと思われます。又、地理的にも特徴があり、標高201mの小山にもかかわらず、すばらしいパノラマが眺望できます（現在は無理）。東は太平洋、南に筑波山、西に日光連山・那須連峰、北に水府の山々が望め、国見の山と言われる所以でしょう。この位置にもう少し注意をはらい東を見ると、現在の大洗町に行き着き、朝房山山頂から真東より30度南にずれた位置に大洗磯前神社があります。この位置関係は冬至日の出線で、県内にこれと同じ条件が、筑波山と鹿島神宮、金砂山と水木浜、阿波山（岩船神社）と酒列神社などに確認できます。これは、古来より天文観測や信仰の対象として先人達の生活と深い関わりを示した関係と言えるでしょう。

現在この山は時代から取り残され、笠間市の北東の端に静かにたたずんでおります。周辺地にも文化の証を示す古墳や中世の廃寺がありますが、未調査のまま木の葉に埋もれています。又、地域も高齢・過疎化が現状で、昔の栄華の影もありません。郷土が生んだ歴史や文化は、郷土の財産です。この貴重な財産を身近に感じ共有することによって、郷土の良さを確認出来れば、そこには現代社会が抱える様々な問題も好転する兆しが見えるのではないかでしょうか。幸い今年、市立図書館も新設され、笠間を知る書籍も置かれ、さらに興味を広げることが出来るでしょう。天気の良い日は、ゲームボーイを握り締めている子供の手にシャベルを持たせ、近くの野山へ家族で出かけてみてはいかがでしょうか。ひょっとして、大きな発見に出会えるかもしれません。又、その近くでもし地元の老人に会ったら是非声を掛けてみてください。話が弾んでお茶に呼ばれたら、遠慮せずに受けてください。前にこんなことを聞きました。家の近くを通る旅にお茶をふるまえないのはその家の恥になる。精神的文化が豊かな笠間の郷土ならではのことでしょう。今でもその精神は受け継がれ、絶えることがないようにと願っています。



真東より30度、南にずれた位置関係は冬至日の出線といっしょ。県内では朝房山と大洗磯前神社のほか、金砂山と水木浜、筑波山と鹿島神宮などがこれと同じ位置関係です。



笠間市池野辺平地区より出土した土器や石器。
(池野辺、柴沼真一さんの所蔵品)

笠間市民全員がふるさと案内人という意識を持てば
とっても素敵な街になると思います。

編 篠間の魅力はどんな所にありますか？
村 水戸の人を案内している時に、止まってくれます。そんな細かな心くばりが大切なんです。

水戸の人を案内してゐる時に、「笠間は緑が多い」と言われました。どういう事かなと思つたら、四方どこを見ても美しい山が見えると言うんです。笠間は観光資源がありすぎる程です。例えばお寺ひとつとっても、多くの貴重なお寺があります。月榮寺から真淨寺鳳台院、楞嚴寺、それから西念寺他にもありますが、それらを笠間のボンネットバスで回遊してもらう。こういう事が好きな人はたくさんいるんです。市内周遊していけるのを一日一便でもいいから、お寺めぐりコースをたどるとか、石切山脈へ行くとかなど散策コースの整備をすれば、お福井さんによつと立ち寄るだけじゃなく、空間に泊まってくれるようになるんじやないでしようか。その経済効果は大きいですよ。

中のひとりが具合が悪くなり、引き返そうかとも思つたんですが、引もうすぐつつじ山の入口だったのでもうすぐつつじ山の入口だったのでそこまで手を引いて行き、その後入口に置いてある車椅子に乗せて上まで行きました。つつじ山頂に着く頃には気分も回復して、その見晴しの良さにとても感動されたんです。「来て良かった。上まで来れて景色を一望できて、本当に笠間はいい所ですね」と言つて、礼状が届いたんです。案内人の心づかいにもとつても喜んでくれて、それがイコール笠間の印象になるわけです。そういう意味でも、笠間市民全員がふるさと案内人なんだという意識を持つて、来ててくれたお客様に対応してくれたら、とっても素敵な街になると思いますね。

それを総合的に置いてある所が欲しいですね。あそこへ行けば何でないと、せつかく美味しいものがあるのにインパクトが無いんですね。何かひと演出が欲しい。例えば、そば屋さんがたくさんありますよね。そばの食べ歩きマップを作つて、そばのまちとしてアピールする。推薦する店をつくるとか。石屋さんも、何かお客様が体験して作れるものがあるといいですね。焼きものの手ひねりのような類いで。それをくず石を使って出来たら一石二鳥ですね。よく地面に置いて、くず石を百円とかで売つてますが、あいうのもきれいにアレンジして、例えばペーパーウェイトだと言つてしまえば、価値のあるものになるんです。笠間はいい素材はたくさん持つている。それをいかに演出してアピールするかが足りないんだと思います。それを工夫して、多くの人に楽しんでもらえる街にして行きたいですね。



笠間はいい素材はたくさん持っています。

【並問ふるさと案内人の会について】

平成13年4月に発足。並河の魅力の紹介と観光客との交流、郷土愛の醸造【かんよう】と、まちづくりのために作られたボランティア組織。現在会員数19名で、観光客への市内観光ガイド、観光シーズン臨時案内所での観光案内等を行っている。設置場所は観光協会内。入会希望者は随時募集中。

KASAMA INFORMATION

茨城県陶芸美術館

Tel 0296-70-0011
<http://www.edu.pref.ibaraki.jp/tougei/>

営 午前9時30分～午後5時（入館は14時30分まで）

休 月曜日（祝日の場合は翌日）12/28～1/1

料 一般￥600・高大生￥450・小中生￥250

●柳宗悦の民藝と巨匠たち展—柳宗悦の心と眼—

2005・1/22（土）～3/21（月）

柳宗悦が蒐集した季研の工芸と民藝コレクション、そして民藝運動にかかわった陶芸、染織、木工、版画の作家たちの作品約150点を展示。



笠間日動美術館

インフォメーション Tel 0296-72-2360
<http://www.nichido-garo.co.jp/museum/>

営 午前9時30分～午後5時（入館は14時30分まで）

休 月曜日（1/3・1/10は開館、1/11は閉館）12/27～1/1

料 大人￥1000・高大生￥700・中小生￥500・65歳以上￥800

●特集展示 藤島武二と岸田劉生 同時間催「画家たちのガラス展」

11/13（土）～2005・2/27（日）

笠間日動美術館所蔵の名品より藤島武二と岸田劉生の作品を特集して展示。また同時間催として、現在活躍中の洋画家によるデザインを基にイタリアのガラス工房でつくられたユニークな作品を展示。

笠間工芸の丘

Tel 0296-70-1313
<http://www.kasama-crafthills.co.jp>

営 午前10時～午後5時

休 月曜日（祝日・連休の場合は翌日）、年末年始

●笠間焼新春新作展

2005・1/2（日）～1/23（日）

笠間焼協同組合主催による彩初市出店者による展示会。

●人にやさしい器展

1/2（日）～1/23（日）

ユニバーサルデザインの器など人にやさしい器を展示。

●酒井芳樹 樹窓 陶芸展

2/2（水）～2/13（日）

酒井芳樹 花器・皿・鉢・茶碗・水指・酒器・器舟・酒呑ほか食器類を展示。

●あかりのオブジェ展

2/16（水）～3/6（日）

猪田定幸 陶にワイヤー・和紙・ガラスなどの組み合わせによる照明器具の展示。

●糸賀陶房新作展

3/9（水）～3/27（日）

糸賀正人／糸賀信子 時計・花器・急須・食器を展示。

●ローランドサクセ 作陶展Vol.2

3/9（水）～3/27（日）

ローランドサクセ 使い方いろいろ・楽しみ方自分流。新作展示。

春風萬里荘

Tel 0296-72-0985
<http://www.nichido-garo.co.jp/mune.m/SHUNPU/index.html>

営 午前9時30分～午後5時（入館は4時30分まで）

休 月曜日（1/3・1/10は開館、1/11は閉館）12/27～1/1

料 大人￥600・高大生￥400・中小生￥300・65歳以上￥500

陶芸・料理など多方面で才能を発揮した北大路魯山人が、アトリエとして使っていた建物を昭和40年に北鎌倉から移築。桜、つつじ、躑躅、紅葉の多い広い庭園は散策の場として最高。

第6回 彩初市

問合せ/Tel 0296-73-0058(笠間焼協同組合)
<http://www.kasamayaki.or.jp>

場 笠間工芸の丘特設会場

時 午前10時～午後4時

●第6回 彩初市（いろどりはついち）

2005・1/2（日）～1/5（水）

笠間焼の展示販売は73名が出展。ほかに企画展「組物（くみもの）」、新春特撰チャリティーオークション（開催期間中毎日午後1時頃）。サービス抽選会、甘酒無料サービスが行われる。



桃宴～陶の雑展～

問合せ/Tel 0296-72-6865(やまさき陶苑・山崎雅弘)
<http://www.kasama-crafthills.co.jp>

場 やきもの通り、陶の小径、ギャラリーロード、稻荷神社周辺の各工房、付帯ギャラリー、店舗、飲食店。

●第5回地域企画展 桃宴～陶の雑展～

2005・1/26（水）～3/3（木）

「みる」「楽しむ」「心なごむ」のスローガンの元、個々の工房、店舗の一角を「ワシスペースギャラリー」として陶雑の作品を展示。飲食店はひな祭りにちなんだメニューを提供する。また1店1作家コラボレーション企画として、稻荷神社周辺の店舗にも作品を展示。1/30(日)には5周年記念イベントとして、笠間工芸の丘の壁面壁画に展示し開拓する六角堂ではオカリナの無料コンサートを開催する。

無料 笠間市内観光周遊バスのお知らせ

毎日8便運行の周遊バス。笠間日動美術館や、稻荷神社など市内観光スポットへのアクセスに便利です。しかも無料！

★毎日8便運行
 (月曜休み、但し祝日の場合は翌日運休)



かさまファン俱楽部 会員募集

かさまファン俱楽部 創設に向けて

財団法人日動美術財団 常務理事 長谷川 智恵子

東京で生まれ育った私が故郷は笠間です。夫の祖先は代々、笠間藩の御殿医でした。笠間に古い歴史が息づいています。親鸞は笠間の西念寺に二十年も住み、忠臣蔵の赤穂浪士も赤穂の前が笠間で、私どもの笠間日動美術館の隣接地が大石家跡地です。

笠間は自然が美しい。四季折々の木々が美しいのは空気が澄んでいるからでしょうか。春の桜やつつじ、秋の紅葉や菊まつりと楽しめます。

文化も県内一を誇ります。茨城県陶芸美術館、笠間工芸の丘、笠間植物美術館、笠間日動美術館と美術館も小さなまちにいくつもあります。笠間焼も有名で陶芸家が多く住んでいます。笠間日動美術館には北大路魯山人の住居が移築されています。「魯山人になれるまち。かさま」のキャッチフレーズも生まれました。ここで、魯山人好みの美食俱乐部を再現したいと思っています。

笠間が大好きです！

草道家 假屋崎 省吾

皆様こんにちは。假屋崎省吾です。

私は、2000年・秋から笠間市に携わり、菊やつつじなど、いろいろな花を通して、笠間にふれあって参りました。

今年で5回目を迎えた個展・草道家・假屋崎省吾の世界を10月30日から11月14日まで日動雅叙園で開催し、笠間の菊をふんだんに使った美の世界を表現しながら、笠間のPRを行って参りました。

とても自然豊かで、歴史と文化・芸術と緑が融合した笠間が大好きです。

これからも笠間市を応援します。

新しい交流の仕組みが誕生！

ーかさまファン俱楽部への期待ー

茨城大学人文学部 教授 斎藤 典生

今から十数年前、大分県湯布院町のまちづくりのリーダー・溝口薫平さんからこんな話をうかがったことがあります。「町の中だけではコヤシになりません。外の方をどれだけ仲間としてもつか、外の目というのをその地域がたくさんもつことが、その町がいろんなものを展開していくふくらませていく、自分自身を太らせる要素になる」と。

私たちは、知人や友人など他人(ひと)に指摘されて初めて気付くことがあります。当たり前すぎて本人には見えない、あるいは見過ごしてしまうことが、他人(ひと)にははつきり見える場合があります。これは、まちづくりにも当てはまるのではないでしょうか。そのまちの良いところ、あるいは尾りないところが、そこに住んでいる人は気付かないけれども、「外の目」を通して初めて見てくる場合があります。気付かなかつた点、初めて見てくるものが、溝口さん御指摘のように、まちづくりにはとても大切な要素になります。

このたび誕生したかさまファン俱楽部は、こうした「外の目」と笠間の市民を結びつける新しい仕組みです。笠間が好きでたまらない人たち、笠間のことをもっとよく知りたい人たちが、ファン俱楽部を通して笠間市民と出会い、交流し、情報交換する。その積み重ねから、まちづくりにつながるいろいろなヒントが出てくるでしょうし、笠間市がさらに魅力的なまちに成長する可能性が生まれることと思います。

私は水戸市に住んでいますが、笠間が大好きで、以前から笠間ファンを自認しています。その私にとって、ファン俱楽部の誕生は何よりのプレゼントのように思えます。新しい笠間と出会う楽しみがこれから始まるかと思うと、ワクワクしてきます。

たくさんの方がこのファン俱楽部に集い、さまざまな出会いを楽しめることを、そして何よりファン俱楽部が長く続くようにと願っています。



© Antoinette Poupel

長谷川 智恵子さん



© Keisuke Kuroki

假屋崎 省吾さん



斎藤 典生さん

会員募集中です！

かさまファン俱楽部は、笠間の隠れた情報を発信し、交流人(外の目)が多くの笠間人(内の目)と交流できる場をつくる新しい仕組みです。笠間人も交流人も、互いに心の豊かさを感じられるような場にしていきたいと思っています。なお、会費は無料ですので是非、皆さんお申し込み下さい。

条件

- 1 笠間市民以外全ての人。
- 2 笠間を好きの人。
- 3 笠間を応援したい人。
- 4 笠間をふるさとしたい人。
- 5 笠間人(かさまびと)と交流したい人。
- 6 笠間の歴史、人、自然を知りたい人。

とにかく、笠間と関わるを持ちたい人を募集致します。

お申し込みは、住所、氏名、メールアドレス、生年月日、笠間市への応援文等をご記入の上、はがき・FAX・メールのいずれかでお申し込み下さい。

(申し込み先)

笠間市産業建設部商工観光課

〒309-1698 茨城県笠間市石井717

TEL 0296-72-1111 FAX 0296-72-9591

E-mail : kasamafan@city.kasama.lbaraki.jp

笠間アクセスマップ

電車からのアクセス

東京方面から

上野→(JR常磐線70分)→水戸→(JR水戸線10分)→笠間

東北方面から

郡山→(JR東北新幹線80分)→小山→(JR水戸線50分)→笠間

高速バスからのアクセス

東京方面から(1日6便)

東京駅八重洲南口(日本橋口着)→(東関東自動車道ほか105分)→笠間駅ほか

車からのアクセス

東京方面から

三郷→(東京都市道→北関東自動車道50分)→

友部IC→(国道355号線5分)→笠間

